古文の助動詞 一覧表（穴うめの答え）

助動詞	意味	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型	接続の注
■ 未然形に付く									
る	受身・尊敬・自発・可能	れ	れ	る	るる	るれ	れよ	下二段型	四段・ナ変・ラ変
らる	受身・尊敬・自発・可能	られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ	下二段型	四段・ナ変・ラ変以外
す	使役・尊敬	せ	せ	す	する	すれ	せよ	下二段型	四段・ナ変・ラ変
さす	使役・尊敬	させ	させ	さす	さする	さすれ	させよ	下二段型	四段・ナ変・ラ変以外
しむ	使役・尊敬	しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ	下二段型	
ず	打消	（ず）・ざら	ず・ざり	ず	ぬ・ざる	ね・ざれ	ざれ	特殊型	
じ	打消推量・打消意志	○	○	じ	じ	じ	○	無変化型	
む（ん）	推量・意志・適当・勧誘・仮定・婉曲	（ま）	○	む	む	め	○	四段型	
むず（んず）	推量・意志・適当・勧誘・仮定・婉曲	○	○	むず	むずる	むずれ	○	サ変型	
まし	反実仮想・ためらいの意志・推量	（ませ）・ましか	○	まし	まし	ましか	○	特殊型	
まほし	希望	（まほしく）・まほしから	まほしく・まほしかり	まほし	まほしき・まほしかる	まほしけれ	○	形容詞シク活用型	
■ 連用形に付く									
き	過去	（せ）	○	き	し	しか	○	特殊型	カ変・サ変は特別な付き方
けり	過去・詠嘆	（けら）	○	けり	ける	けれ	○	ラ変型	
つ	完了・強意	て	て	つ	つる	つれ	てよ	下二段型	
ぬ	完了・強意	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね	ナ変型	
たり〈完了〉	完了・存続	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	
けむ（けん）	過去推量・過去の原因推量・過去の伝聞・婉曲	○	○	けむ	けむ	けめ	○	四段型	
たし	希望	（たく）・たから	たく・たかり	たし	たき・たかる	たけれ	○	形容詞ク活用型	
■ 終止形に付く（ラ変型には連体形）									
らむ（らん）	現在推量・現在の原因推量・現在の伝聞・婉曲	○	○	らむ	らむ	らめ	○	四段型	
べし	推量・意志・可能・当然・命令・適当	（べく）・べから	べく・べかり	べし	べき・べかる	べけれ	○	形容詞ク活用型	
まじ	打消推量・打消意志・不可能・打消当然・禁止・不適当	（まじく）・まじから	まじく・まじかり	まじ	まじき・まじかる	まじけれ	○	形容詞シク活用型	
らし	推定	○	○	らし	らし	らし	○	無変化型	
めり	推定・婉曲	○	（めり）	めり	める	めれ	○	ラ変型	
なり〈伝聞推定〉	伝聞・推定	○	（なり）	なり	なる	なれ	○	ラ変型	
■ 連体形・体言に付く									
なり〈断定〉	断定・存在	なら	なり・に	なり	なる	なれ	（なれ）	形容動詞ナリ活用型	
たり〈断定〉	断定	たら	たり・と	たり	たる	たれ	（たれ）	形容動詞タリ活用型	
ごとし	比況・例示	（ごとく）	ごとく	ごとし	ごとき	○	○	形容詞ク活用型	
■ その他									
り	完了・存続	ら	り	り	る	れ	れ	ラ変型	サ変の未然形・四段の已然形

※ ○は無い形、（ ）は使われることが少ない形。「じ」は特殊型とする本もある。「き」はカ変・サ変に付くとき、こし・こしか・きし・きしか／せし・せしか・しき の形になる。